

第4回中野区基本構想審議会

○日時 令和元年10月18日(金曜日)午後7:00~9:00

○会場 中野区役所7階 第9・10会議室

○出欠者

1 中野区基本構想審議会委員

出席委員(19名)

相川 梓、饗庭 伸、和泉 徹彦、大塚 桂樹、岡井 敏、小澤 温、岸 哲也、
興梠 与利子、五味 道雄、佐藤 真木、甚野 誠一郎、高橋 宏治、藤本 飛鳥、
能登 祐克、松本 洋子、宮脇 淳、室伏 渉、吉村 芳明、米持 大介

欠席委員(6名)

今村 亮、岡見 初音、小池 浩子、城山 智子、高橋 佐智子、由良 明彦

2 事務局

企画部長	高橋 昭彦
総務部長	海老沢 憲一
危機管理担当部長	滝瀬 裕之
新区役所整備担当部長	(総務部危機管理担当部長 滝瀬 裕之 兼務)
区民部長	青山 敬一郎
子ども教育部長(教育委員会事務局次長)	戸辺 眞
子ども家庭支援担当部長	小田 史子
地域包括ケア推進担当部長	藤井 多希子
健康福祉部長	朝井 めぐみ
保健所長	向山 晴子
環境部長	岩浅 英樹
都市基盤部長	奈良 浩二

【議 事】

○宮協会長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより中野区基本構想審議会の第4回を始めさせていただきますと思います。

本日は、今村 亮委員、岡見 初音委員、小池 浩子委員、城山 智子委員、高橋 佐智子委員、由良 明彦委員の以上6名からご都合により欠席とのご連絡を受けておりますが、半数以上の委員の方に出席をいただいておりますので、会議は有効に成立をしております。まず最初に本日配付されております資料の確認を事務局からお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは説明させていただきます。本日、配付している資料は1点でございます。基本構想審議会答申（案）を、会長、副会長、また部会長を含め、皆様のご意見などを踏まえて作成させていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。以上でございます。

○宮協会長

ありがとうございます。それでは次第に沿って進めて参りたいと思います。

最初に基本構想審議会答申（案）ということで、事務局から基本構想審議会答申（案）について説明をお願いしたいと思います。なお、この答申（案）は、前回の審議会における審議の中で、いただいた意見を踏まえまして、副会長、そして各部会長の協力・承諾を得ながら、取りまとめをさせていただいております。10月28日（月曜日）に区長に答申としてお渡しをするという予定でございまして、本日最終的なご確認をいただきたいと思います。確認をいただきまして、その後は私と副会長にご一任いただき、最終的な整理を行った上で、答申とさせていただきたいと思っております。

なお、本日の進め方でございますけれども、答申案の確認をしていただきました後に、今回がこの本審議会の最後の会となりますので、この6ヶ月強を振り返りまして、議論をしていただきました感想など、委員の皆様から一言ずついただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは資料1、基本構想審議会答申（案）につきまして、委員の皆様にご確認をいただくために、事務局から説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

それでは説明をさせていただきます。まず前回の審議会のご意見を踏まえまして、大きく修正があった箇所について説明させていただいた上で、答申（案）全文を読み上げさせ

ていただきたいと思っております。

まず、修正箇所がございますけれども、2 ページ目の第 2 段落の 3 行目、真ん中あたりから「そのためには…」というところについて、前回の審議会で、福祉介護等に関する記述が少ないのではないかというご意見がございましたので、書き加えております。それから同じページの一番下の方でございますが、「子育て世帯が中野区に住み続けられる環境の向上…」というところについて、「子育て関連施策の充実」のほかに、「地域コミュニティへの参加」という言葉を追記しております。

3 ページ目でございますが、「(3) 安全・安心と未来を創るまちづくり」という項目については、前回の審議会で、まちづくりやハードについての記述がない、というご指摘がありましたので、災害対策のまちづくり、それから、今後再開発が行われるまちづくり事業等について、追記してあります。

続きまして、5 ページ目の「2 改定にあたって重視すべき 3 つの視点」に、「先に述べた社会状況等を踏まえ、…」から始まる 4 行を追加させていただいております。この視点の趣旨と、「改定にあたって盛り込むべきと考える事項」との関連性について、まとめております。続いて、その下の「(1) 多様性の共存とゆるやかなつながり」の 2 行目に「多様な国籍や文化、年齢、障害の有無、性自認や性的指向」という記述がございますが、他の箇所の同様の表現と統一することで修正したものでございます。それからその下の「(2) 新しい物語のはじまりと再出発のまち」でございますが、前回は「人生の新しい物語が始まる」というような書き方を文中でしていたんですけれども、「人生の」という文言は除きました。

6 ページ目でございますが、「(3) 未来を協創する立場を越えた協働」の記述全体が少しわかりづらいというご指摘がございましたので、そのあたりをわかりやすく記述しました。それからタイトルの部分ですけれども、前回は「未来を協創する垣根を越えた協働」という書き方だったんですけれども、「未来を協創する立場を超えた協働」という言葉に直してございます。

続きまして、9 ページをご覧くださいいただければと思います。「2 子育て・教育」につきましては、(1) から (5) の順番を入れ替えております。前回は、「(1) 子育て・子育てが楽しくなる地域環境」、「(2) 子どもの命と権利の保護」、「(3) 地域の子育て力」、「(4) 自らの可能性を伸ばし成長する若年世代」、「(5) 社会の変化に対応した教育・保育」という順番でしたが、順番を入れ替えさせていただいて、「(1) 子どもの命と権利の保護」、「(2) 社会

の変化に対応した教育・保育」、「(3) 子育て・子育てが楽しくなる地域環境」、「(4) 地域の子育て力」、「(5) 自らの可能性を伸ばし成長する若者」という、現在の順番に変更したというものでございます。それから、前回の審議会で「(2) 社会の変化に対応した教育・保育」の中に、幼稚園、保育園等の記載がないというご意見をいただいておりますので、追記をしております。また、「よりよい」という表現が多数出てくるというご意見もありましたので1ヶ所削っております。

10 ページ目に移っていただきますと、「(5) 自らの可能性を伸ばし成長する若者」ということで、前回の審議会で、若者という表現があったほうがいいのではないかというご意見がありましたので、修正いたしました。なお、下のところに、子どもの定義と若者の定義というものも追記をしております。

次に11 ページ目でございますが、(1) の表題を変えております。こちらはもともと「多様な生き方が受け入れられる社会」という表現でしたが、「多様性を受け入れ、誰もが輝ける社会」という表現に変えております。

続きまして、12 ページ目ですが、(4) の表題を変えております。前回「支援を必要とする人を支える社会参画」というものだったんですが、「支援を必要とする人を支える多様な形態の社会参画」と、いうことで追記をしたということでございます。

さらに13 ページ目をご覧ください。「4 都市・防災・環境」の一番上の一行ですが、これから新たなまちづくりが進んでいくという趣旨を踏まえて、「～シンボル拠点の形成と安全・安心で住み続けたいまち～」という表現に修正しております。

それから15 ページ目ですけれども、「区における今後の検討において留意すべき事項」として、今後基本構想をつくるにあたって区として留意すべき事項ということで追記しております。

主な修正箇所については今ご紹介させていただいたとおりでございます。それでは、答申(案)の全文を読み上げさせていただく形でご確認をいただければと思います。

(「資料1 中野区基本構想審議会答申(案)」の1～15ページの全文読上げ)

以上でございます。

○宮協会長

ありがとうございました。ただいま、15 ページまでのところを読み上げていただきましたけれども、ここまでが答申(案)でございます。今、読み上げていただいた最後のところにもございましたように、この審議会で各委員から寄せられた意見の中で、審議会に対

する諮問事項ではないものの、具体的な基本計画や分野別計画等に資する内容である、と考えられるものにつきましては、この16ページ以降のところに記載をいたしまして、区に対して、基本計画等を検討していただく際に、十分留意していただきたい、という構成にしております。先ほども申し上げましたように、前回までの審議会でのご発言を踏まえて、副会長、各部長と協議し、ご承諾を得て、このようにまとめさせていただいております。ご異議がなければ、この内容で答申として確定をさせていただき、誤字・脱字あるいは、てにをは的なものにつきましては、副会長と私の方にご一任をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○佐藤委員

9ページ目と10ページ目の子育て・教育の部分ですけれども、教育の質という部分の記述がありません。22ページ目には「教育の質の向上が図られている」といった記述はあるんですけれども、答申（案）の本文に記載がないのは、中野区としてはあまり必要と感じてないように見えるのですが、よろしいのでしょうか。

○宮脇会長

今取り上げていただいたところですが、これは基本的には、10年後に実現するまちの姿ということで整理をしているものであり、ここに至るまでの間に質の向上というのは、当然中野区としては取り組んでいただくということでご議論いただいております。また、子ども・子育てや教育に関する個別の計画において、質の向上ということについては、十分ご検討いただいております、そういった現在の取組等を踏まえて描いた10年後の姿ということですので、全体の計画体系を見ていただければ、今のようなご懸念はないかと思えます。

○吉村委員

全体的に、今までと違った言葉として出るのが、コミュニティとしてのゆるやかなつながりというものです。これは今までの共生といったものではなくて、基本的に共感のような形になるのかなというふうに思います。これはすごく大切なことだと思います。自分に合ったかたちで力を発揮したいという意識を区民が持っているということと、その思いを区が支えていくということがすごく大切なので、とてもいいと思います。

ところが4ページで、Society5.0というのが出てくる。ソフト的なところに対して切り込むSociety5.0については、少し注釈を入れたほうがいいと思います。将来的にこういう社会になるよと言われても、ピンと来ない区民が多いのではないかと思います。スマート

フォンをみんなが持っているわけではない。すべての区民が必要な情報を…というような記述があったと思いますが、情報っていうのは情けに報いると書くんですけど、情け容赦なく、一部の人を切り捨てる面があります。区民の誰もが超スマート社会の恩恵を享受できるように、区として支えていかなければならないと思います。

ゆるやかなつながりということはすごく大切です。それぞれが持っている力を出し合うようなこと、プロボノのようなことをやることはすごくいいと思いますが、そういったコミュニティをつくっていくと、どうなるのかを区民がしっかりと感じられるよう、わかるようにしていただくことが、重要なというふうに思ってます。以上です。

○宮脇会長

ありがとうございます。今のご指摘は非常に重要だと思いますので、副会長と相談させていただきまして、場合によっては基本構想を区の方で検討する際に、注意書きのようなものを付けるように申し伝えるといったようなことも検討したいと思っております。

○吉村委員

もう1点です。6ページ目に「(3) 未来を協創する立場を超えた協働」とあります。協働という言葉は諮問文の中にもあったんですけど、やはりこの協創という一步踏み込んだ言葉で、これから一緒に作り上げていくんだぞというところの意識を高めたいというふうに思います。以上です。

○宮脇会長

はい。ご意見として承りたいと思いますこれも副会長とご相談させていただき対応を検討させていただきます。

○相川委員

「地域コミュニティの構築」という話がたくさん出てくるんですけども、その時に、そういったコミュニティの集まれる場があるというようなことをエッセンスとして入れていただけないかなというのが1点感じたところです。

あと、3ページ目の「(3) 安全・安心と未来を創るまちづくり」において、ソフト面で防災教育も推進されているといったことも、入れられるといいかなと思いました。また、「災害時の活動基盤となる橋梁…」というところで、橋梁が壊れないようにということは重要だと思いますが、活動基盤という言葉は当たらないのではないかと思います。あと「電線地中化」という言葉があるんですけども、これは「無電柱化」と一般的に言われているのではないのでしょうか。

同じく3ページ目の「(4) 外国人住民との共生」やそれ以降で、外国人と書いてあったり、外国籍と書いてあるところがありましたので、そこは統一した表記がいいと思いました。また、二つの国籍を持つていうのもいるので、表現としては、「多様なバックグラウンドを持っている方」等、外国人とか外国籍だけではない表現も、検討する余地があるのではないかと感じました。以上です。

○宮脇会長

語句の使い方につきましては法令等も確認の上、適切に対処したいというふうに思います。また、橋梁の件につきましても同様に検討いたします。

最初のご指摘の点につきましては、本体に入れるのがよいか、あるいは参考資料の方に入れるべきであるかは、判断をさせていただきたいと思います。

○五味委員

2ページ目の「深刻な影響を与えることが予想される」という表現について、申し上げます。今、中野駅の乗降客が増えています。現在、JR中央線の各駅のうち、新宿駅、東京駅、立川駅、中野駅の順に乗降客が多い。なぜ乗降客が増えたかということ、10年以上前は、警察大学校跡地で、野原の状態だったところに、四季の森公園ができ、大学ができて学生や留学生が増え、それからキリンビール等の大手企業が入ってきたことが大きな理由と考えられます。しかし、これからはどうなるのかということを懸念しています。昨年まで中野区の空き家問題審議会の審議会委員を務めておりましたが、中野区において空き家は増えております。だから、今にぎわっている一方で、長期的に見れば人口はいずれ減っていくわけですから、それを見据えて、次の10年を考えなきゃまずいと感じています。以上です。

○宮脇会長

ありがとうございました。その他いかがでしょう。

皆様からいただいたご意見を少し整理をしまして、先ほど申し上げましたように、16ページ以降のところの参考資料の方に、盛り込むべき事項ということにつきましても検討させていただきたいと思います。これは全体を含めまして、区長の方には提出をさせていただくという形になります。それでは大変恐縮ですが、今、いただきましたご意見を踏まえまして、副会長と相談をさせていただき、そして、てにをは等も含めまして、私と副会長の方にご一任をいただきたいと思います。特にご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

○宮協会長

ありがとうございます。それでは、そのように進めさせていただきます。本当に皆様、長い間ご苦労さまでした。

冒頭にも申し上げましたように、今回が最後の審議会になりますので、この6ヶ月強の間を振り返りまして、また議論をしてきましたことに対する感想など、率直なところを委員の皆様から一言ずついただければと思います。委員の皆様、人数も多いですから、大体1人1分程度を目安にご発言をいただければと思います。大変恐縮ですが大塚委員から時計回りで、ご発言をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○大塚委員

健康・医療・福祉部会の大塚です。唯一の20代で委員を務めさせていただき、不安もあったんですけども、小澤部会長含め、本当にやさしい先輩方ばかりで、安心して発言することができました。また、他の部会の方々も本当に中野を愛していると感じ、また中野のために発言されてる姿を見て本当に心強く感じました。私はICTで今、中野を中心に全国の教育支援をしております、また総合商社と組んで、東南アジアとかアフリカの教育基盤を整備する事業計画をしています。本当にICTが、この10年後、本当に世の中を変えたいと思います。IT世代と呼ばれる私たち10代から30代が、次回の審議会で、中野区を支える人材となれるように、励みたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○岡井委員

自治・共生・活力部会の岡井でございます。せっかくなので、2点ご要望を申し上げたいと思います。

今回、基本構想審議会の答申がまとまって、こちらが、いろんな審議にかけられていくということになると思います。それがきちっと決定をしたあかつきには、私を含めて区民の皆さんにとってわかりやすく、そして浸透してくるような、そういう工夫や面白さがあると、とても親しみがある基本構想になっていいなというふうに思うので、そういうこともちょっと検討いただきたい、というのが1点です。

もう1点が、基本構想の後には長期の基本計画策定に取り組まれることと思います。この答申には、いろいろなすばらしい未来が書かれています。しかし、これを計画に全部落としていくと、財政上の10年後のビジョンはどうなるのか、その途中の、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった財務諸表がどのように推移するのかという

ころは、今回、基本構想審議会の仕事ではなかったのですが、気にはしております。以上でございます。ありがとうございました。

○岸委員

自治・共生・活力部会に参加しておりました岸と申します。約半年間、いろいろ話をさせていただいて、本当に私も勉強になりましたし、楽しい時間だったなと思っています。いろんなことがありましたが、特に印象に残ったのは、SDGsの話が出たとき、昔、自分が考えていたことなどを思い出しておりました。忘れがちなのですが、21世紀に入ってから20年弱がもう過ぎようとしているということ、やはり折に触れて考えてみるべきだなと思いました。20世紀って何だったんだろうというのを、今振り返って、考え直してみるような時期なのだとすると、21世紀っていうのはなかなかいい時代になるかもしれないなっていう、そういう期待があります。

ここで話されたことを踏まえていただいて、基本構想の方に反映していただければ本当にありがたいかなと思いました。どうも皆さんありがとうございました。

○興梠委員

都市・防災・環境部会の興梠と申します。6ヶ月間、いろんな方のご意見を聴く機会があったり、自分としてこれまでやってきたことを踏まえて、発言をさせていただいたりということで、本当に勉強になりました。この後、防災のリーダーとしての自分の役割ですか、地域における町会の役員としての役割などを通じて、今回いろいろ関わらせていただいたことが具体化される段階でも、またいち区民として一緒に協働していきたいなと思いました。ありがとうございました。

○佐藤委員

健康・医療・福祉部会で委員をさせていただきました佐藤です。実は、子どもたちの未来のために何かできることがあればいいなと思ってここに公募したんですけど、なぜか健康・医療・福祉部会だったので、いろいろ自分の中で葛藤があったんですけども、中野が、教育がとても充実していて、子どもが集まって、そしていっぱい育って行って、ということ親として、ずっと願っていたと、そういう区が強いんじゃないかと思っています。どうもありがとうございました。

○甚野委員

都市・防災・環境部会に参加させていただきました甚野と申します。ありがとうございました。未来の10年を作るこの基本構想に関わらせていただいて、ここがスタートでこれ

から10年の間に、この答申に書かれたことがちゃんと実現するかどうか、期待もありつつ、不安もありつつといった気持ちです。しっかりと実現できれば、子どもたちに、この先20年、30年と残せる中野区になるのかなと思っているので、まずはその先の基本構想改定作業をしっかりと区の方でしていただければなというふうに思っております。以上です。ありがとうございました。

○室伏委員

健康・医療・福祉部会の室伏です。今の中野区の子どもたちが、10年後や20年後に「中野区は本当にいい区だな」と思ってもらえるように、という気持ちで参加させていただきました。いろんな角度からいろんな意見があるんだなっていうことにすごく刺激を受けました。自分が中野区で育ち、お世話になってきたという感謝も込めて、今後の10年、20年が中野区にとって本当に良いものとなるように、少しでも力になりたいという思いを強くした次第です。本当にありがとうございました。

○吉村委員

都市・防災・環境部会の吉村でございます。中野区の人材の豊富さは、もう昔から言われていて、それぞれが持っている専門性や活動してきた実績などが生かされることが大切だと思います。区民の持っている力をどう組み合わせるのかというのが、これからの区の運営だと思うんです。区民の側も、区に全部頼るのではなくて、どうやって住んでる人たちと一緒にやっっていこうかと考えることも大切だと思います。そういった仕組みをみんなで作っていくことが大事なのではないかなと思います。

それから、中野区の懐の広さというか、昔住んだことがあるとか住みやすいとかっていうことが、やはり中野の特色であって、それは昔からの人の性格なり気質というものがあるような気がします。私もここで育って65歳になりましたが、こういった中野区の良さをどうやってこれから先につなげていこうかと考えています。

あと、答申には記述が少ないですが、私たちの部会での環境という言葉が、これから先の大きなキーワードだと思います。これについては、全員が、いろいろなフィールドで考えていただくことが必要かなと思っています。

また、これから策定する具体的な計画や施策についても、区だけをお願いするのではなくて、できるところは積極的に関わっていただいて、実践していくことを望みたいと思います。ありがとうございました。

○五味委員

建築士事務所協会の五味と申します。会長をずっと6年くらい務めまして、今でも毎日、建築と都市計画のことに携わっております。とにかく訴えたいのは、中野区は、道路が23区中、一番狭いこと。それから公園が少ないこと。神戸だとか、外国まで出かけて、地震の惨憺たる有様というのを見てきています。今、地震が起きたら、おそらく中野は、被害が絶大だろうと思います。悠長にはしてられないという感覚です。

また、幼稚園や保育所の数が、近隣の杉並区や練馬区より少なく、敷地面積も近隣区と比べると狭いこともあってか、子どもの成長に伴って中野区からほかの区に引っ越してしまうということです。そうならないように、この審議会だけではなくて、中野区の行政の方はよく真剣に考えてもらってやってもらいたいと思います。以上です。

○高橋 宏治委員

自治・共生・活力部会の高橋です。私は中野区商店街連合会の会長を務めております。中野には72の商店街があるんですけども、その商店街の将来にたくさんご意見をくださいましてありがとうございます。たくさんいろいろなご意見を聴きまして、私自身になり見方というのはこんなにあるんだっていうことに驚きました。だからここに来るのがとても楽しみにになりました。

もう一つの専門は西武沿線のまちづくりです。30年やってきたんですが、おかげさまで中井-野方間は今地下化の工事に入りました。これから野方-井荻間の立体交差化に向かおうとしているんですが、それぞれの地域でそれぞれの人たちが、まちづくりを頑張っています。私たちは、「これからのふるさと」というテーマでまちづくりをしようと思っています。機会がありましたら、西武新宿線沿線にもお出かけください。ありがとうございます。

○能登委員

中野区立中学校PTA 聯合会を代表し、子育て・教育部会に所属しておりました、能登でございます。仕事の関係で2度ほど欠席をさせていただきましたが、和泉先生には的確な司会・進行をしていただきまして、本当にありがとうございました。こういった話を実現できるかというときに重要なのが、区民と職員の皆さんとの協創で、共に汗をかきながら言うのであれば、誰とは言いませんけれども、せめて目を開けて話を聞いて欲しい。そういう姿勢でいて、共に汗をかいてと言われても、我々からすると、一緒に頑張れませんかよってなってしまうので、そこはどうかご注意をしていただきたいと思います。私もいろんな立場で物を申さなければいけない立場だったので、連合会の一員としての発言とさ

せていただきました。

先ほど佐藤委員からも、子どもの教育の件についてご発言がありましたが、我々中学校PTAも小学校PTAと一緒に頑張っておりますので、ご安心ください。以上です。ありがとうございます。

○藤本委員

中野区立小学校PTA連合会の子育て・教育部会の藤本です。感想といたしまして、本当にこれを10年で実現できたらすごいなと思う一方で、正直実現できるか不安です。例えば、この答申案を作るのにも半年以上かけていますが、10年ってすごくあっという間だと思います。この答申の内容を実現するのはすごく難しいと思うんですよ。大事なのは具体的なこれからの計画や実際何をやるか、だと私は思っております。しかし、ボリューム感から言っても明らかに行政だけでは絶対無理だと思いますから、各企業やほかの方々が手挙げることも大事ですし、そういった方々が取り組みやすい環境を整えて、まずスピード感をもってできるような環境を整える必要があると思っております。10年後、答申に描かれているまちの姿をもし実現するのであれば、スピード感をもって進めていかなければいけないと思います。例えば今日の進め方も、すでにもうメールで送られている部分がありましたので、すべて読み上げる必要はなかったのかなと個人的には思いました。そういったところでも、もっとスピード感をもってやらないといけないと感じ、10年後がちょっと心配になりました。

また、5年後は状況変わってくるかと思えますし、そういった変化に柔軟に対応して、修正していてもいいと思います。そして、協働できるような体制がもっともっと整っていけばいいと思います。今後も協力したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○松本委員

健康・医療・福祉部会に所属しております、中野区社会福祉協議会の松本です。この会議に参加させていただいて、皆さんがおっしゃるように、多様な意見があるのだなと感じるとともに、それが地域なのだということを改めて感じました。そういう意味では、皆さんの意見を一つにまとめていくというこの経過と、この時間がすごく重要なのだなと思って参加させていただいております。社会福祉協議会は「誰もが生き生きと暮らせるまちづくり」という理念のもとに課題に取り組んでいて、今は居場所づくりというのを中心に取り組んでいます。審議会の議論を通して、子どもからお年寄りまでどなたにおいても、

一人ひとりに居場所があるということが、安心に暮らせるために重要なんだなっていうことを、改めて実感することができました。

ここにいらっしゃる方たちは地域の課題に対しても関心が高いですが、これからどうやってそうじゃない方たちも巻き込みながら取り組んでいくのかということ、考えてやっていかないといけないと思っております。本当にありがとうございました。

○米持委員

自治・共生・活力部会の米持でございます。私は東京商工会議所の代表として参加しましたので、経済活性化についてを中心に発言をしていました。我々が感じている課題はハブ機能がないのではないかとということで、取り上げていただき、ありがとうございました。

また、これは個人的な思いなんですが、審議の過程で、連携やつながりという発言が多くございましたが、経済界としては皆さんとつながりが薄かったので、これからそういうものも目指していければいいかなと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

○相川委員

子育て・教育部会に参加しておりました相川 梓です。半年間、大変貴重な機会に参加でき、光栄に思います。子育てを始めて、中野区や地域に関心を持って、いろいろな情報収集をして、活動をしてきましたが、私がここにいることそのものが中野区の懐の広さを表しているとも思います。

中野区は、この10年で本当にダイナミックに変わるのだらうなと思います。駅も新しくできたり地下化も始まったり、また世の中もどんどん変わっていく。そのようなすごく大事な10年後のまちの姿を考える場に参加させていただいて、大変勉強になりました。また、10年後の中野区のことを考えながら、自分自身が今後の10年どうするかなっていうことも非常に考える機会になりました。自分が区に対して何ができるのかな、子どもに対して何ができるかな、子どもに何が残せるかな、ということ考えた半年間でした。

私は区内の企業に勤めています。その視点で考えると、中野に限らず日本中の経済が今後不安という中で、企業も社会に対してどのようなサービスを提供していったらいいかってことを考えるタイミングだと思います。だから、市民と区だけではなく、経済界も巻き込んで、さらにICTも存分にこの再開発の中で生かして、世界にアピールできる中野区になるというような、そんな大きな夢を持ってぜひ進んでいけるといいなと思っております。どうも半年ありがとうございました。

○和泉委員

子育て・教育部会の部会長を務めさせていただきました和泉でございます。佐藤委員におかれましては、今回も前回も子育て・教育のところにご意見いただきまして、ありがとうございました。今日ご挨拶いただいて、初めてそのことが腑に落ちまして、部会は公開でしたので、お忙しいとは思いますが、傍聴のご案内をできていればと思うと残念です。

ご懸念いただいている部分っていうのは、たぶん子育て・教育部会に参加されていた一般公募の委員の方々も同じような懸念をもって最初にご参加いただいたのかなというふうに思っております。その中で、団体の代表で来てくださった方々から現状こうなっています、というご説明をいただき、あるいは区側から子育ての支援はこういう形で取り組んでいます、教育でも十分ご懸念の部分のカバーする形でやっています、というご説明もいただき、そして、委員の皆様の意識レベルが一致した上で、この先の10年、社会が変化する中で子どもたちに必要なことは何だろうか、地域環境とは何だろうか、という形で議論がどんどん積み上げられていったと考えております。中野区が今やってることというのは、十分に誇れる部分というのがあります。ただ、これからの社会の変化に対応していくという部分に関しては、区民の意見も踏まえながら、この10年でまだ積み上げなきゃいけない部分っていうのは何なのか、というところが子育て・教育部会の中では大きな議論だったというふうに考えております。しかしながら、すべてを答申に十分に盛り込めたかという、やはり時間も限られておりましたので、盛り込めなかった部分については、今後基本計画等を定めるにあたって、ぜひ盛り込んでいただければというふうに考えております。どうもありがとうございました。

○饗庭委員

都市・防災・環境部会の部会長やらさせていただきました首都大学の饗庭です。皆さん活発にご議論いただきましたので、私が率先して発言して議論を前に進める場面がなく、主に交通整理をするだけでよく、充実した議論ができたと感じています。ありがとうございました。

いろいろなまちの都市計画をお手伝いさせていただいていますが、中野区は私が持っている現場の中で数少ない、まだ人口が増えているまちです。都市部は大体そうですが、こういう議論って久しぶりだなと思うことも結構ありました。答申の社会状況のところにも書いてありますけれども、計算によれば、あと20年ぐらいは人口が増え続けるらしいということです。人口が減っていくということをおそれながら、基本構想や基本計画を考えなければいけないのは、まだ先のことかもしれません。少なくとも、10年後に考え始

めてもいいのかなというふうに思っております。一方で、人口の減少局面では、政策を変えていかなければいけないというカーブを曲がるんですけども、人口減少が10年前から分かっていたのに準備をしていなくて、慌てて何かやっちゃって曲がり方に失敗している、というまちが結構ございます。5年くらいかければ曲がれるカーブもあるんですけども、10年かけないと曲がれないカーブもあります。特に都市計画は、20年ぐらいかけてカーブを曲がらなければいけないことがあります。例えば地方の都市で、10年前から人口減り始めているのに、20年前に決めてしまった開発事業止めることができないとあって、苦しんでいるところが結構あったりします。だから、そういったことも少し念頭に置いていただいて、まだ具体的に何かしなければいけないということではないかもしれませんが、いろいろ気づかれたことを練り上げて実施していただければ、よろしいかなというふうに思いました。どうもありがとうございました。

○小澤副会長

私は健康・医療・福祉部会の部会長と審議会の副会長も仰せつかりました。実は中野区とは、障害福祉計画や介護保険事業計画といった計画づくりでかなり関わらせていただいております。これらの計画は、制度の影響を受け、かつ財政的な制約もあり、アイデアが出しにくいような議論だったのですが、今回の基本構想の審議会は、そういう制約はとりあえず忘れていろんな立場からご意見を言っていただきましたので、私は結構楽しんでおりました。立場が違う方と意見交換するという機会はなかなかないので、いろんな考え方に触れることができましたし、同じものを見ていてもこういう見方があるんだ、あるいは、こういう領域で見るとまた違うものが見えてくる、というような経験を皆さんとしてきたように思います。何回か会議を積み重ねるうちに、最初の頃からだいたい皆さんの意識が変わってきて、最後の方は一つにまとまっていく姿を見ていて、これが本当の意味でのコミュニティかなと思ったりもしました。答申としてまとまった成果物も大事ではあるのですが、そういった議論の過程も大事にしていきたいと思っております。

これから、行政だけでは解決できないような相当困難な課題が多々出てくると思うので、やはり協働や協創をぜひ進めていただきたいと感じております。私も今後、また先ほど申し上げたような中野区の計画づくりに関わる機会があれば、ここで出された様々なアイデアをできる限り実現するにはどうしたらいいかということ、ぜひ考えてみたいと思っている次第です。本当にどうもありがとうございました。

○宮協会長

委員の皆様、6ヶ月間本当にありがとうございました。今日、こういうすばらしい答申をまとめることができました。私自身は杉並区民なんですけれども、杉並区でもぜひこうやって作っていただきたいなというふうに思っております。副会長はまだ仕事が残っているのですけれども、部会長の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。また事務局、それから行政の皆さんにもお世話になり、ありがとうございました。本当に充実した審議会でした。基本構想については、確かに10年後どうなるかっていうことがありますけれども、途中で見直しつつ、良いものにしていただきたいと思いますと思っております。

一つだけお詫びしなければいけないんですけれども、今日、答申（案）の全文を読み上げましたのは、私がお願いしたのでありまして、永見さんはいらないと言われたんですね。だから、スピード感がないのは私です、行政の皆さん、この点については、他は知りませんが、この点については私のスピード感のなさですので、その点だけはお許しいただきたいと思っております。申し訳ありませんでした。

これから皆さんも、いろいろなところで一緒になられることがあろうと思っておりますけれども、ぜひこの結びつきをご縁にいろいろと地域で頑張っていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。それでは本日の議事はこれで終了とします。事務局の方から何かございましたらお願いいたします。

○高橋企画部長

企画部長の高橋でございます。委員の皆様におかれましては、6ヶ月を超える長きにわたりまして、本当にご熱心にご審議いただきましてありがとうございました。感謝申し上げます。正式な答申については10月28日（月曜日）になりますけれども、それを受けまして、私どもは、基本構想、そして基本計画に反映させるとともに、この後の区政に生かしていきたいと存じます。本日が審議会の最終回ということでございますけれども、引き続き皆様におかれましては、一緒に考えていただければ幸いに存じます。改めまして、誠にありがとうございました。

○永見基本構想担当課長

皆さん半年間、本当にありがとうございました。答申をこれからいただくこととなりますが、審議の内容を踏まえて、基本構想や基本計画を作っていくと思いますので、引き続き注視をしていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

事務連絡でございますけれども、お車で区役所にお越しになった委員がいらっしゃいま

したら、駐車券の処理をいたしますので職員にお声がけをいただきたいと思います。

○宮協会長

以上をもちまして、中野区基本構想審議会を閉会させていただきます。6ヶ月強にわたりまして皆さん、どうもありがとうございました。

— 了 —